

5 徳島県立文学書道館【予算 22,059千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親しみ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

(1) 顕彰、表彰事業【予算 1,230千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	第12回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(10部門)を募集し、発表の場を提供することにより、文芸活動の活性化、県民文化の向上を図る。各部門の入選作品は「文芸とくしま」に掲載し、紹介する。</p> <p>応募締切:9月30日(火)当日消印有効 発表:12月中旬(新聞紙上・館内掲示・HP) 表彰式:平成27年2月11日(祝・水)</p>	1,230,000	
	小計		1,230,000	

(2) 年鑑編集・刊行事業【予算 800千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	ことのは文庫 「寂聴文学データブックII」	<p>寂聴の文章が掲載された作品集や、前書き、後書き、帯などを書いた本、脚本、文庫本のデータを収録した第2弾のデータブックを発行する。</p> <p>単行本サイズ 1,000部</p>	300,000	
2	ことのは文庫 木本正次「黒潮の碑文」	<p>当館展示作家である木本正次が、生まれ育った牟岐をモデルに書いた「黒潮の碑文」を再刊行し、顕彰する。</p> <p>A6版サイズ 1,000部</p>	500,000	
	小計		800,000	

(3) 教育普及育成事業【予算 1,725千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	文学講座 古典を楽しむ 「和泉式部日記」を読む	<p>時代背景とその人生の変遷を学び、心情を読み解く。古典に親しみ、日本人や日本語を考える機会とし、現代を生きる心の糧とする。</p> <p>日時:4月～9月(全6回・各土曜) 会場:講座室</p>	126,000	
2	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家・研究者に専門分野の話をしていただき、平和で心豊かな社会の創造について考える。</p> <p>日時:5月～11月(全4回・各土曜) 会場:講座室</p>	180,000	
3	文学講座 言の葉テーマ朗読会	<p>展覧会のテーマに応じた文章と、「反戦」にかかわる文章を朗読する。講座生の中から希望者8人が5分ずつ読み、一般に公開する。</p> <p>日時:5月～1月(全4回・各日曜) 会場:講座室</p>	10,000	

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
4	文学講座 書くことを楽しもう	近年「自分史」の人気の高まるとともに、当講座で「自分史」に特化して実習講座を行ってほしいという要望が寄せられていた。はじめて自分史を書こうとする人でも、わかりやすく段階を追って書き方を学べる実習講座。 日時:8月～12月(全5回・各土曜) 会場:講座室	70,000	
5	文学講座 夏休み文芸広場	学生に向けた講座。佐々木義登(07年三田文学新人賞)、都築隆広(00年文学界新人賞)、針谷卓史(06年三田文学新人賞)、新進気鋭の作家と一緒に小説を書くことにも繋がるワークショップを行う。 日時:7月26日(土) 会場:講座室	265,000	
6	知的書評合戦ビブリオバトルin徳島	お薦めの本を5分で紹介し、観客が一番読みたくなった本に投票してチャンプを決める。今話題の知的ゲームを開催。大学生が中心となって企画を運営する。 日時:8月24日(日) 会場:講座室他	35,000	
7	文学講座 徳島の文学を楽しむIX	徳島ゆかり作家の作品や、徳島を舞台にした作品を中心に紹介。優れた文学作品を掘り起こし、文学を楽しむ手立てとする。 日時:9月～12月(全4回・各水曜) 会場:講座室	58,000	
8	文学講座 製本を楽しむ	製本の基礎を学び、好きなものを製本できるようにする。 基礎編と応用に分けて、個人に応じた製本を楽しむ。 日時:10月～12月(全3回・各水曜) 会場:講座室	45,000	
9	文学講座 秋の文学講演会	アメリカ生まれの小説家、日本文学者であるリービ英雄氏を招いた講演会。『万葉集』の英訳で全米図書賞、『星条旗のきこえない部屋』で野間文芸新人賞を受賞するなど国内外で評価の高い作家が文学について語る。 日時:11月22日(土) 会場:ギャラリー	515,000	
10	第13回言の葉朗読会	朗読を楽しみ、朗読の質の向上をめざす人たちに舞台を提供し、朗読を聞くことが好きな人たちに機会を設ける。各自が選んだ文学作品を5分以内で朗読する。 日時:9月27日(土) 会場:ギャラリー	11,000	

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
11	書道講座 親子で学ぶ美文字 －硬筆－	文字には、固有の形の取り方・結構法というものが、それを理解し練習することで美しい文字が書けるようになる。親子で参加して、美しい文字を学ぶ講座。 日時:6月～7月(全3回・日曜) 会場:実習室	44,000	
12	書道講座 小さい印を作ろう	名前の一字を12mm角の小さい石印材に刻し、実用的な印を制作する。受講希望者が多いため、26年度も実施する。 日時:9月(全2回・金曜) 会場:実習室	44,000	
13	書道講座 「とくしま文化推進期間」 実施事業 渡部清が語る書	講師は、NHKの番組「新日本紀行」「シルクロード」等の題字を揮毫した渡部清氏。講師の題字にまつわる話や書道に対する考えをお聞きし、奥深い書の世界をさぐる。 日時:11月3日(月・祝) 会場:講座室	181,000	
14	書道講座 書き初め 大字に挑戦!	特大筆で約70cm×70cmの紙に文字を書き、書作品を創作する楽しさを体験する。書と文字に興味と関心を持ってもらうとともに、日本の伝統文化を通して、文化を大切に育てる。小学生対象。 日時:1月10日(土) 会場:実習室	71,000	
15	書道講座 漢字の書法を学ぶ 隷書	看板や商品のロゴによく使われる隷書。その基本的な特徴と技法を学び、隷書に親しむとともに、書の理解を深め技能を高める。 日時:3月15・29日(全2回・日曜) 会場:実習室	70,000	
	小計		1,725,000	

(4) 展示事業【予算 18,304千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生をたどりながら寂聴文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和ませる日本庭園を設置している。年数回の展示替えを行っている。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	—	
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島の人・場所・文化が織りなす文学回廊。徳島にゆかりの深い文学者とその作品、徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から感じとれる展示としている。展示室内では、年2回の小テーマ展も開催している。 期間:通年 会場:文学常設展示室	—	

(4) 展示事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラスウォールを通して展示している。また、特別展に関連した展示や収蔵品を紹介する展示をしている。 期間:通年 会場:収蔵展示室	—	
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	徳島ゆかりの書家が生み出した豊かな造形の世界を味わう書の仙境。線の行者・小坂奇石の息づかいが感じられる書齋も再現している。年数回の展示替えをし、収蔵している豊富な作品等を広く紹介している。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	—	
5	文学特別展 寂聴 奇縁まんだら展 (特別展示事業)	寂聴と交友のあった作家や芸術家、政治家など、物故者の思い出を綴った文章に横尾忠則が挿絵を描き、「奇縁まんだら」として全4巻で刊行され、人気を呼んでいる。この文章の抜粋と原画、故人の書簡や愛用品等を展示する。 期間:4月26日～6月8日 39日間 会場:特別展示室・ギャラリー	2,715,000	
6	書道特別展 西谷卯木展－鬼才が放つ つかなの美－ (特別展示事業)	西谷卯木は明治37年に生まれた。戦後、神戸にあって大字かな運動とかな作品の近代化を模索し、現代におけるかなを提唱した人である。作風は多彩で斬新、かつ深奥。巨匠卯木の書を紹介する。 期間:6月20日～8月3日 39日間 会場:特別展示室	2,539,000	
7	文学特別展 北條民雄展 (特別展示事業)	ハンセン病に苦しみながらも名作「いのちの初夜」を発表し、日本文壇に大きな影響を与えた北條民雄。彼の生涯や作品、また師川端康成との交流を資料とともに紹介する。 期間:8月7日～9月23日 41日間 会場:特別展示室・ギャラリー	2,790,000	
8	書道特別展 小坂奇石と川村驥山－ 「線の行者・奇石」と「酒 仙・驥山」の書－ (特別展示事業)	小坂奇石は他の追随を許さない独自の書風を確立し、昭和を代表する書家である。当館には、遺族より寄贈された作品約340点を収蔵しており、毎年小坂奇石展を開催している。今回は、線の行者と評された小坂奇石と、奇石と交流があり書家として初めて日本芸術院賞を受賞した川村驥山の書作品を展覧し、巨匠二人の書の魅力を紹介する。 期間:10月4日～11月12日 34日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	3,096,000	

(4) 展示事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
9	文学特別展 万葉集展 (特別展示事業)	近年、全国的に古典文学の人気が高まっている。当館においても、この数年、古典文学講座は毎回満員の盛況ぶりである。そこで文学特別展でも万葉集を取り上げ、日本人の心の原風景を喚起すべく、絵画や写真、オブジェなどを展示会場に配しつつ、万葉集のうたを味い、体感してもらおう。また万葉集を愛した近代の文学者、井上靖、斎藤茂吉、会津八一、折口信夫などを紹介し、ゆかりの作品を展示する。 期間:12月20日～2月8日 37日間 会場:特別展示室・ギャラリー	2,950,000	
10	書道特別展 中林梧竹「癒しのかすれ」展 (特別展示事業)	中林梧竹は、近代書道史に名を連ね、明治の三筆に挙げられる書家である。当館には約300点を県指定有形文化財として収蔵しており、毎年梧竹展を開催している。今回は、梧竹作品の大きな魅力である「渴筆(かすれた線)」をテーマとし、梧竹ならではの「心なごむ」かすれの美を展観する。 期間:2月15日～3月22日 31日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	1,369,000	
11	文学収蔵品展 貴司山治の時代小説展 (企画展示事業)	鳴門市高島に生まれた貴司山治はプロレタリア作家として知られているが、戦後はたくさんの時代小説を書いた。中でも新聞小説には、鴨下兆湖などが挿絵を描いて、その原画が実に生き生きとしていて美しい。新聞小説の切り抜きや直筆原稿、挿絵原画を中心に、貴司山治の時代小説を紹介する。 期間:6月18日～8月23日 58日間 会場:文学常設展示室	189,000	
12	書道企画展 墨にこだわった作品展 (企画展示事業)	書の用具の一つである「墨」に焦点をあてた展覧会。県内の書家に書作品を揮毫していただき、作品と使用した墨やその色見本等も展示する。 期間:6月20日～8月3日 39日間 会場:ギャラリー	697,000	
13	書道企画展 徳島県高校生 第4回書道席書創作コンクール展 (企画展示事業)	4回目となる書道コンクール。県内の高校生より「漢字」「仮名」「漢字仮名交じり」の3分野の書作品を募集し、予選通過者による本選を実施する。本選は、当日に与えられた課題を当館にて席書する。席書作品(45点程度)はすべて展示し、表彰する。 期間:12月6日～14日 8日間 会場:ギャラリー	921,000	
14	書道企画展 「今年の一文字」展2014 (企画展示事業)	「一年を振り返って、今年を象徴する一字、或いは思い出に残る漢字一字」を募集し、応募のあった全ての作品をロビーに展示する。作品は、葉書大とし、毛筆で書いたものとする。 期間:12月14日～27日 12日間 会場:1階ロビー	42,000	

(4) 展示事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
15	文学収蔵品展 海野十三の探偵小説 名探偵 帆村荘六の世界 (企画展示事業)	海野十三が生み出した、名探偵・帆村荘六の作品を紹介する。海野と親交の深かった江戸川乱歩や横溝正史らの探偵小説も紹介する。 期間:1月20日～3月29日 60日間 会場:文学常設展示室	300,000	
16	書道企画展 回顧・とくしまの書ー戦 後徳島を舞台に活動し た書人たちー (企画展示事業)	戦後、徳島において活動した書家・書作品を紹介するとともに、これまでの県書壇を振り返る。 期間:2月15日～3月22日 31日間 会場:ギャラリー	696,000	
	小計		18,304,000	
	合計		22,059,000	